

アマツバメとハリオアマツバメ

(学名：アマツバメ / *Apus pacificus* ハリオアマツバメ / *Hirundapus caudacutus*)

【アマツバメ目アマツバメ科】



▲ はるか上空を飛翔する鎌型の翼のハリオアマツバメ

本格的な夏へと向かう季節、よく晴れた日の夕方に只見川や伊南川のほとりにいると上空から「チリリリ・・ジリリリ・・」という音が聞こえます。振り仰ぐと鎌のような細長い翼を持った鳥が高いところを集団で飛んでいるのを見ることができます。これはアマツバメ科の鳥です。ツバメと名がついていますが、皆さんの良く知っているツバメ科に属するツバメとは異なるなかまです。ツバメとは翼の形で区別することができます。アマツバメ科の鳥は飛行に適した細長い翼と空気抵抗の少ない体型を持ち、脚と趾が極端に短く歩くことも木にとまることも苦手で、巣にいるとき以外は飛び続けていることが知られています。

飛行している集団の中には、よく見ると腰が白く尾羽がふたつに分かれて見えるアマツバメと、のどが白く尾羽の先が平たく見えるハリオアマツバメが混じっていることがあります。いずれも夏鳥で、インドネシアやオーストラリアで越冬します。只見町での繁殖地はわかっていませんが、アマツバメは岩の割れ目などに、ハリオアマツバメは樹洞に営巣するので、只見町の雪食地形の岩場や成熟した森林で繁殖し、夏の夕方に食べ物である昆虫を追って町中に姿を現すようです。

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

特別企画展 「植物学者・河野昭一の世界～その生涯と只見」

期 間：開催中（9月2日(月)まで）

会 場：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

お申込み・お問い合わせはブナセンターまで ☎0241-72-8355